

# NY インターフェイス平和の集い

天理教ニューヨークセンター所長  
福井 陽一 Yoichi Fukui

## イスラエル・パレスチナ紛争

10月7日にパレスチナの過激派組織ハマスによるイスラエル攻撃が始まり、イスラエルはそれに対して宣戦布告を行い、戦争に突入したとのニュースが飛び込んできた。大規模な攻撃により、1万人以上の犠牲者を出している状況の中、ニューヨークでも大きな出来事が起きている。イスラエルは世界中で最も多くユダヤ人が住んでいる国であるが、2番目に多いのがニューヨーク市になる。市内のあちこちで、イスラエルの支援者とパレスチナの支援者との対立が深まりつつある。タイムズスクエアや国連本部付近、イスラエル総領事館前などで、大規模な抗議活動が実施され、逮捕者が出たほどだ。在ニューヨーク日本総領事館からは、デモに注意を喚起する呼びかけが出されている。市内の各地の大学でもデモが行われ、マンハッタン北部にあるコロンビア大学では、キャンパス内で大規模なパレスチナ支持集会が行われた。ニューヨークの金融業界や弁護士業界にはユダヤ系が多く、パレスチナ支持者は解雇されたり、就職内定が取り消されたりしているようだ。

ユダヤ人コミュニティが中心となり企画された集会には、ニューヨーク市長や知事が参加して、イスラエル支持を宣言しているが、一方では他のユダヤ人コミュニティが主催してイスラエル政府を批判し、パレスチナ人の解放を訴える集会も持たれている。

10月27日にニューヨークのグランドセントラル駅中央コンコースを埋め尽くした集会がその一例だ。彼らのスローガンは「ノット・イン・アワ・ネーム (Not in Our Name)」。「我々ユダヤ民族の名に誓っても、パレスチナ人に対するジェノサイドは許さない」との意味だそう。あまりにも大勢の人が集まり、業務を妨害したためか、この集会では数百人の拘束者が出ていた。民族大虐殺を経験したユダヤ人たちが勇気を出して、ジェノサイドという言葉がイスラエルに突きつけている。つまり、パレスチナ人たちの側に立つ人たちが、ユダヤ系アメリカ人の中にも生まれてきているのである。

ニューヨークの国連人権高等弁務官事務所のクレイグ所長は、国連は創設以来ずっと、イスラエルによるパレスチナ人の殺人と迫害を止められなかった。そして、今、ガザでは、民家、学校、教会、モスク、医療機関が無差別に攻撃され、何千人もの市民が虐殺されている。この国全体をアパルトヘイトが支配している。これはジェノサイドの教科書のような事例だ。国連が現実と妥協し、現実を見て見ぬふりをして失敗を繰り返したことを反省し、今こそ理想を実現しよう。私たちは皆、歴史の重要な瞬間に、どこに立っていたかについて責任を負うことになる。正義の側に立とうではないか、と訴えている。

それぞれの正義を通すがために、多くの尊い命を犠牲にして各地で戦争や紛争が行われていることを悲しく思うが、平和の難しさと平和の大切さを思わずにはおられない。

## NY インターフェイス平和の集い

去る8月、広島・長崎の原爆犠牲者追悼と世界平和の祈念



【国連教会センター内でのインターフェイス祈念】

を目的とする「NY インターフェイス平和の集い」が開催され、天理教を代表して参加した。この集いはNY 平和ファウンデーション（代表・中垣顕実法師）が主催し、今年で30回目を迎えた。今回は市内3つの会場で3回に分けて、宗教の垣根を超えて、仏教、キリスト教、イスラム教、ユダヤ教、ヒンドゥー教などからの宗教家や音楽家、舞踏家、団体代表らが集い平和を訴えた。1日目は8月5日「ヒロシマの日」にマンハッタンで最も古く17世紀半ばからイースト・ビレッジに位置しているセント・マークス教会で行われ、式典のあと、原爆が投下された時間に合わせて中庭で平和の鐘が鳴らされた。2日目は8月8日にジャパソサエティーで「長崎の日」を開催。9日は国連教会センターで「世界に向けてピースデー」が開催された。天理教の代表として3日間を通して追悼の詞を奏上、篠笛でのよろづよ八首演奏、そして雅楽演奏を行った。

パンデミックでバラバラになった平和の繋がりを祈りを通して再び取り戻し、新たなビジョンをもって平和な世界を目指して前進していこうという平和の集いとなった。争いの絶えない世界において、今こそ宗教や団体の垣根を超えた平和への祈りの大切さを感じている。

## てをどり・イン・マンハッタン

マンハッタンにあるニューヨーク天理文化協会では、1997年7月から「てをどり・イン・マンハッタン」という名のもと、マンハッタンに神名を流し、世界の治まりを祈ることを目的に、毎月「ておどり」が続けられている。今年で26年になるが、マンハッタンの中心地で9つの鳴物揃えてつとめられるおつとめは、今のところ天理文化協会だけである。平和への祈りを込めながら継続していき、祈りを通して平和への輪が広まっていくように願っている。

## 【お詫びと訂正】

前回の連載(2023年9月号)で、SoulFire ソウルファイヤー・フェイス・カンファレンスの主催が「アメリカ伝道庁教化成委員会」(左段下から22～23行目)と記載いたしましたが、正しくは、「アメリカ伝道庁」の主催でした。訂正してお詫びいたします。